

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

平成 30 年度第 5 回 理事会 議事録

【開催日時】平成 30 年 10 月 11 日（木）12:00～13:30

【開催場所】ホテル日航奈良 5F 百合

【出席した理事】中村博亮、松山幸弘、川上守、島田洋一、大川淳、千葉一裕、西良浩一、高相晶土、種市洋、永島英樹、中村雅也、長谷川和宏、前田健、山田宏、渡辺雅彦

【出席した監事】加藤文彦、小西宏昭

【議事の経過の要領及びその結果】

中村博亮理事長は定款の定めにより議長となり、開会を宣言し、直ちに議事に入った。

審議・決議事項

1. メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：会員審査 7-9 月分

島田理事が、7～9 月の入退会について委員会では全員承認であった旨報告し、一同検討の結果承認した。

2. JSR 編集委員会より：優秀論文賞の新設について

長谷川理事が、『JSR』誌への投稿部数の減少対策として「優秀論文賞」設置を提案し、前回の JSR 編集委員会(8 学会の連合誌である『JSR』誌の各学会代表者、数名の JSSR 評議員からなる)での検討結果を説明した。

対象は JSSR の特集号の原著論文のみ

審査員は JSR 編集委員

副賞は 20 万円で 2 件まで

初回は 2019 年の 1 年間(1・2・4・9 号)を対象とし、2020 年の学術集会の会員総会で表彰を行う

検討の結果、「優秀論文賞を創設すること」は承認されたが、選考方法や賞金額等については、再度 JSR 編集委員会内で検討することになった。

3. 用語委員会より：

高相理事が、5 年ごとに改定している用語集について、次回発行予定の 2020 年も例年通り会員全員へ配布してよいかと提起した。前回作成時の概算見積額を提示し、今回は LIF のページが増える予定なので、多少増額される予定と説明した。

島田理事が、紙媒体の本にするよりもアプリとしたほうが会員の使い勝手がよく、また費用面でも経費削減になると意見が述べられた。高相理事が、南江堂に対して印刷せずにアプリとする場合の見積もりを依頼することになった。

審議・報告事項

1. 大正富山 AWARD 選考委員の件

中村理事長が、今年度の大正富山 AWARD 選考委員候補を提示した、一同検討の結果承認した。

2. 国際委員会より：APSS2021 について

中村雅也理事が、国際委員会内で協力団体としている APSS から、2021 年の日本での開催および、2019 年の Basic コース担当の 2 つの依頼があったと報告した。当学会での費用負担はない予定であると説明がなされ、開催及び担当を承認した。

3. 倫理委員会より

「XLIF ACR 手術及び XLIF Thoracic(Nuvasive Japan)手術データベース構築に関する研究」研究者などの変更について審査結果

「頸椎由来の頸肩腕症状に対する薬物治療の臨床経済研究」についての倫理審査

「頸椎人工椎間板置換術手術のデータベース構築に関する研究」についての倫理審査

永島理事が、現在学会が主導する臨床研究のありかたについて、日本整形外科学会（JOA）の倫理委員会での判断もまだ出ていない状況であることを報告し、議論を継続することとした。

4. DB 委員会より

ACR 胸椎 XLIF レジストリーについて

種市理事が、ACR 胸椎 XLIF のレジストリーについて、50 例全例の登録を完了したが 1 例において重大事故が発生し、施設内事故調査委員会で分析中であることが報告された。現時点では、ACR の新規手術について、休止状態にあると報告した。

頸椎人工椎間板レジストリーについて

種市理事が、現在 5 症例のレジストリーが集まっていると報告した。1 年間の PMS 後のレジストリー継続費用が寄付で賄われる予定であることが説明された。

5. JSR 編集委員会より

JSR 編集・発刊の現状

長谷川理事が、JSR 編集・発刊の現状を報告した。

JSR 広告収入の推移

JSR 広告収入の過去 9 年間の推移について報告があった。

広告申請企業数と広告収入の減少は明らかであり、今後、広告収入に頼らない JSR の運営が望まれる。審議の結果、具体策としては、主要な支出要因である雑誌印刷配布を無くしてオンライン化を導入することが望ましいとの結論になった。時代の趨勢でもあるオンライン化を早急に進めるべく、理事長より委員会で審議を進めるよう指示があった。

COI について

JSR 投稿における COI の確認について、今年中には投稿規定に反映する予定であると報告した。

6. 用語委員会より：費用計上について

審議・決議事項3にて議論済み。

7. その他

・新技術評価検証委員会から：ACR手術の休止期間について

渡辺理事が、審議・報告事項4で報告されたACR手術の休止について、いつまで休止するのが妥当かと問い、一同検討の結果、施設の事故調査委員会の対応終了までは行わないほうが良いとの結論になった。

・役員等のCOI審査結果

前田理事が、今年の夏に新委員会等のCOIを審査し、問題事例はなかったと報告した。

以上

平成30年10月11日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 中村博亮

監 事 加藤文彦

監 事 小西宏昭